



生命医科学部

渡辺 政隆 先生

サイエンスライター

進化生物学

科学コミュニケーション

質問 01/04

なぜいま、サイエンスコミュニケーターが必要だと考えるのか？

まず最初に確認しておきたいのは、サイエンスコミュニケーターが必要とされているのは、**職種としてだけでなく、職能として、機能としても求められている**ということです。サイエンスコミュニケーションの意義を理解し、そのためのスキルを身につけ、**科学にまわつる情報発信や対話などを実践する人がサイエンスコミュニケーター**です。

この10年、大地震や水害、原発事故、コロナ禍など、**思わぬ災害に見舞われてきました。科学万能神話**が**もろくも崩れた**といえます。いや、というよりは、そもそも科学は万能などではないことがいつの間にか忘れられていたことを思い知らされました。ただし人類の英知が築いてきた科学を活用しない手はありません。そのために、**これからの世の中で何が必要なのかを見極め、科学には何ができるのか、何を期待できるのかを議論していかねばなりません。**

サイエンスコミュニケーションとは、個々の科学リテラシーの溝を埋める作業だと思っています。その過程を通じて、**互いの科学リテラシーをさらに高めていくことが可能となります。**そのためにも、そうした活動をさまざまな局面や対象を相手に実践するサイエンスコミュニケーターの存在が求められているのです。

質問 02/04

同志社でどのようなSC養成副専攻を目指していききたいか。

総合知の一環としてサイエンスコミュニケーションを学ぶ場にしていきたいと思っています。その意味で、**理系文系を問わず、多様なバックグラウンドをもつ学生の履修を期待**します。そして、その多様性を活かした対話を重視します。サイエンスコミュニケーションは、いわゆる専門家と素人との対話がすべてではありません。というか、すべての人が、何らかの専門家のはずです。なので、**専門家間を隔てる「壁」を崩すことがサイエンスコミュニケーションの要諦**にほかなりません。

まずは皆さんに、そのような意識をもってもらうことから始まります。

質問 03/04

副専攻を通じて身に着けてほしい力、どのような力が身につくか

まずは、自分にとって科学とは何か、自分と科学とのつながりを考えることから始めてみましょう。そこから、社会にとっての科学、科学にとっての社会を考える糸口が見えてくるはずです。副専攻では、個人や地域などのローカルなスケールから社会や地球全体と
いったグローバルなスケールまで往還しながら科学のあり方を考える意識を身につけて
もらいたいと思っています。それと同時に、そうした意識を広めて共有するために必要な
スキルを磨いてもらいます。

質問 04/04

履修を検討している学生にメッセージ

狭い専門分野に留まることなく視野を広げ、共感共有の輪を広げたい
と思っている学生諸君の参加を待っています。